



平成28年11月 一の宮小防災リーダー

## 防災ずきんをつきました！

放課後子ども教室でお世話になっている松下レイ子先生をゲストティーチャーにお迎えし、5年生対象に防災ずきん作りを行いました。地震や噴火による降灰等の災害では、頭を守ることがとても大事です。身を守るグッズがそばにあると便利です。

5年生は家庭科の学習で裁縫を行っていますので、なみぬいの練習にもちょうどよく、上手に作り上げていきました。

材料：タオル3枚、リボン

作り方：①タオル3枚を重ねる

②まちばりを五か所にうつ。

③横をなみぬいする。(両方)

④半分に折り、輪から半分だけ縫う。

⑤リボンをつけたらできあがり！



手縫いをするわけは、タオルをばらして包帯の代わりにしたり、何かをふいたりするためだそうです。タオルの間に新聞紙を入れておくと座布団代わりにもなるそうです。1つで何役にもなるこの防災ずきん！ご家庭にあるタオルで簡単にできますので、みなさんもぜひチャレンジしてみてくださいはいかがでしょうか。

## 不審者から身を守るには・・・

先月、低学年を対象に防犯教室を行いました。そのとき、不審者役を警察の方にいただき、どのような対応をするのか、代表児童にやってもらいました。その時の様子を見られてのアドバイスは以下のとおりです。

◎知らない人と話すときには、きよりをおく。

◎早めに、その場からはなれる。

◎大人をよぶ。

(子ども達は、「ついていきません！」と大きな声で言っていたので、バツチリ！と思ったようですが、話している間、不審者役の方の真横にずっといたんです。)

このほか、身を守る方法として、防犯ブザーが有効です。

きちんと鳴るかどうか、ご家庭でチェックをお願いします。



「被災地研修で学んだこと」

六年 木村 勝彦

防災教育で宮城県に行くという話を聞いて、震災後の宮城県はどうなっているのか知りたいと思い、希望しました。行くことが決まってから、どんなところか地図で調べました。行ってみると、思ったより遠く感じました。

熊本地震は、おしる時ゆめわてるのに気付いて目が覚めました。でも、それからどうやってベッドからおりたのか覚えていません。気付いたら、一階の柱時計がたおれていて、真っ暗で床を見ると何かが割れていたのに気付きました。また、ゆれ始めたので、家族と机の下にかくれました。ゆれがおさまって、祖父母も心配だったので、みんなで車に乗って祖父母の家に行きました。祖父母も大丈夫だったので、みんなで車の中でねました。最初はねむれなかったけど、気付いたらねていました。

それから、毎日車で過ごしました。食事はいつも外で食べていました。学校も休みになったので、弟いつも遊びました。楽しかったけど、これがいつまで続くのかな、学校は大丈夫かなと思いました。

荒明校長先生のお話で、十日間もお風呂に入れなかったこと、食事がとても少なく、震災後三日目で、一日の一人分の食事が食パン一枚の六分の一と聞いて、ぼくみたいに遊んだり、家族で楽しくひ難生活ができなかったことを知りました。食事もおなかいっぱいにならない日がたくさん続いて、本当に大変だったろうなと思いました。

研修で学んだことは、大きな地震があったら、阿蘇には海はないけれど、津波にあうかもしれないということです。大人になってどこに住むかわかりません。津波は川を逆流して一回引くけれど、その後もっと大きな津波がきます。視察地の雄勝町を実際に歩いてみたとき、家や商店街があったところに何もなくて、遠くに港と海が見えました。震災から五年五ヶ月も経っているのに、町はコンクリートと草っ原が広がっていました。津波のこわさを改めて感じました。実際に行ってみて、雄勝町は周りが山で緑がたくさんあって、阿蘇に似ているなと思いました。

ぼくが一年生になる前の三月に東日本大震災が起きました。テレビのニュースで見たのを覚えています。五年後、十年後にまた宮城に行ってみたいと思います。この研修で学んだことを友達やたくさんの人に、一人一人が命を守ることができるよう伝えていきたいです。